

形状確認用 3次元模型の制作

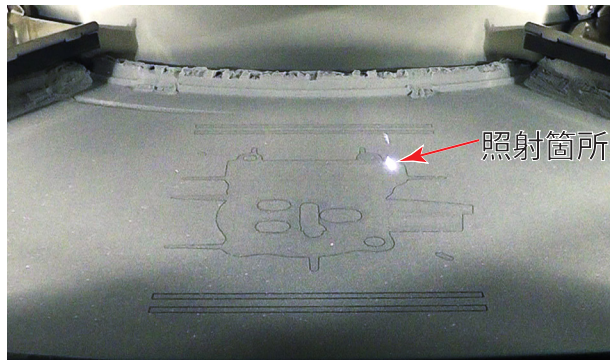
利用事例：3次元CADで制作した部品の形状を確認したい

富山県ものづくり研究開発センターの積層造形装置は、3次元形状のデータを基にして、樹脂粉末にCO₂レーザを所定の断面形状になるよう照射し熔融・凝固させ薄い層を形成し、これを積層することによって樹脂模型を造形する装置です。

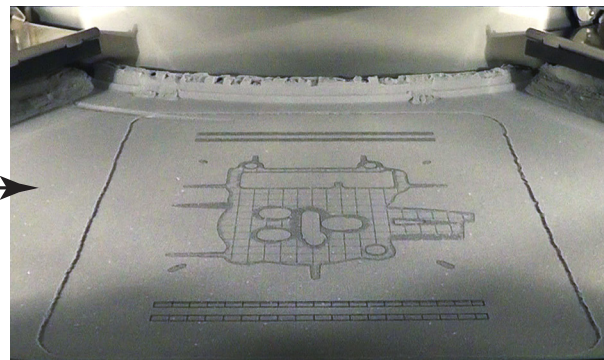
造形に必要な断面の形状データは、CTなどの3次元スキャナーによるデータや3次元CADデータから、表面形状のデータ(STL形式)を一旦作成し、さらに所定の間隔で水平にスライスして作成されます。



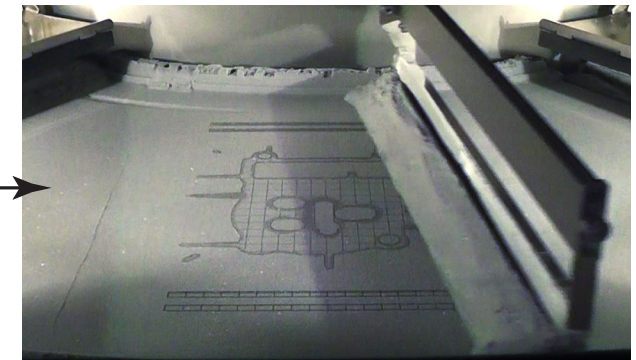
樹脂粉末による造形の手順



断面形状に沿ってレーザを照射
(樹脂粉末は一旦熔融し直ちに凝固)



断面形状の照射完了後に0.1mm造形部を降下



1層分の樹脂粉末を敷き表面を平滑にする
(全体を造形するまで繰り返す)

使用装置：積層造形装置 (EOS GmbH)